

會務報告

第 25 卷 第 12 號 昭和 14 年 12 月

土木學會創立 25 周年記念大會記事

土木工學論文抄録第 2 輯の發刊

本會は過ぐる昭和 9 年 10 月、土木學會創立 20 周年記念事業の一つとして土木工學論文抄録を刊行し、明治、大正、昭和の 3 代に亙る土木に關係ある論文の内容を抄録し、會員に頒布したのであつたが、其の後 5 ヶ年間を閲した今日再び會員各位の要望により茲に土木工學論文抄録第 2 輯を發行した次第である。今回の抄録に於て前回と異なる點は海外文獻をも紹介した事で、他は分類法から體裁に到るまで全く同じとした。之れは其の方が今後第 3 輯以降の發行に當つても便利であると考へられたからである。尙本第 2 輯に収録した論文は昭和 13 年 6 月末までに發表されたものである。

云ふまでもなく、斯かる種類の刊行物は其の資料の蒐集を始めとして編纂まで可成の努力を要するものであつて、茲に本會は委員長 久保田敬一博士以下の關係委員及其の編纂に従事せられた方々に厚く謝意を表する次第である。

土木學會略史の發刊

曩に土木學會創立 20 周年記念事業に際しては土木學會略史編纂委員會が設置せられたのであつたが、今回は其の年數も僅かに 5 年であるので委員會を設置せずに編纂に着手したのである。所が本會の最近の業績は時局と俱に驚異的なるものがあり、この爲に近々 5 ヶ年間の業績は其の以前 20 年間のそれに比し優るとも劣らぬと云ふ内容を示した。これ一重に會員各位の各方面に於ける活潑なる御努力の賜物であると同時に、土木學會の最も誇りとする所である。

會長ラヂオ講演

本會々長八田嘉明君が創立 25 周年記念祝賀會の第 1 日 10 月 18 日午後 7 時 40 分よりラヂオを通じて「戦争と土木」なる演題の下に全國へ放送した。その内容は會長講演欄に記述した通りである。

記念晩餐會

土木學會創立 25 周年記念大會の第 1 日として昭和 14 年 10 月 18 日上野精養軒に於て記念晩餐會を開催した。當日の參加者は來賓 62 名、會員 160 名の多數に及び、受付開始の 4 時 30 分頃より續々と會場に參集し 5 時頃にはさしにも廣い餘興場も超満員の盛況を呈した。餘興は 5 時より先づ大島伯鶴の講談に始まり、三遊亭金馬の落語、李彩の奇術、時次郎の曲藝等盛澤山の餘興が夫々大喝采裡に次々とは行はれ、參加者はいづれも愉快な時を過すことを得た。かくして 6 時半會場の準備全く成りシャンデリヤ光り輝く下に全出席者着席の後八田會長の挨拶あり晩餐會は至極盛大裡に取行はれた。デザートに入る頃午後 7 時 40 分より八田會長の「戦争と土木」と

題する記念ラヂオ放送あり、會場の一隅に設へた擴聲機により一同意義深く聴くことを得た。會長の放送に次いで堀越副會長の指名により瀧山 與、井上秀二、福富並喜、大石 勇の諸氏のテーブルスピーチが行はれた。かくて午後 8 時 30 分古川阪次郎氏の發聲にて土木學會の萬歳を三唱し至極盛會裡に記念晚餐會を閉ぢて記念大會第 1 日を終了した。

祝賀會に於ける會長挨拶

今夕土木學會の創立 25 周年記念晚餐會を開催するに當りまして來賓各位並に會員各位に於かれましては御繁多の折柄にも拘りませず遠近各地から多數御來臨下さいまして此の記念會を盛大にせられましたことは誠に感謝の至りに堪へません。

顧みますれば本會が大正 3 年に創立されまして以來 25 年の間年と共に進展致し今日では 6 箇所の支部を設置して會員相互の親睦向上を計り會員の數も 9000 名の多きに達しました。

斯くの如く本會が隆昌を見るに至りましたことは歴代會長を初め役員及會員各位の不斷の御努力に依ることは勿論であります、一面に於て土木關係各位の絶大なる御支援に負ふ所又極めて多いのであります。茲に本會を代表して此の點に深く感謝の意を表したいと存じます。

本會は創立以來引續き土木學會誌を發刊致しまして土木工學に関する智識の涵養及技術者技能の啓發に資して參りました。或は學術講演會、映畫會、見學會、視察旅行等を行ひまして見聞を廣め、智識の向上と會員相互の親睦を計り、又時勢に應じ各種調査研究機關を設けまして調査及研究の結果を發表し斯界に寄與貢獻したるものも尠くありません。就中

關東地方震害調査、東京市高速鐵道調査	土木工學用語調査、コンクリート調査
鋼橋示方書調査、杭の支持力調査	明治以前日本土木史調査、外人功績調査
關東及關西地方風水害調査、臺灣地方震害調査	防空施設研究、オリンピック大會土木施設調査
土木士法案調査、行政機構改正調査	土木工學論文抄録編纂、請負工事契約書調査
土木文化映畫委員會、東亞調査及連絡委員會	時局對策委員會

之等は其の主なるものでありまして土木界の權威をわずらはし委員長及委員に御依頼して其の調査研究を發表したるものも尠くないのであります。

併し土木界の廣汎な分野と其の國家的重要性を顧みて見ますと學界從來の活動も之を以て決して満足すべきでないのでありまして更に一層の躍進を續くる必要を痛感する次第であります。

今や時局は極めて重大であります。此の重大時局突破のためには舉國一致、文化産業開發の根幹をなす土木技術家の一大奮起努力を必要とします秋、會員各位に於かせられましては益々土木技術報國の道に邁進せられまして相互の親密を加へ相率ゐて斯界の發展向上に努力せらるゝと共に本會使命達成のため御協力あらんことを此の機會に切望して止まない次第であります。

終りに望みまして此の度 25 周年記念事業を行ふに當りまして斯界關係各位に對し御贊助方を御依頼申上しました處本會の趣旨に御賛同下さいまして絶大なる御援助を賜り感謝に堪へません此の機會に於て厚く御禮を申上します。

記念晚餐會出席者芳名 (敬稱略)

來 賓

尼崎築港株式會社	芦田工業所	出雲電氣會社
大阪電氣軌道株式會社	株式會社 大阪鐵工所	大阪北港株式會社

大 阪 市
火 兵 學 會
九 州 送 電 株 式 會 社
琴 平 參 宮 電 鐵 株 式 會 社
埼 玉 縣 土 木 課 長
白 石 基 礎 工 事 會 社
株 式 會 社 飛 鳥 組
照 明 學 會
中 央 土 木 株 式 會 社
株 式 會 社 利 根 ポーリング (2 名)
東 京 市 土 木 局 長
東 洋 鐵 網 製 造 株 式 會 社
東 京 電 燈 會 社
日 本 輕 金 屬 株 式 會 社
株 式 會 社 西 松 組
日 本 鋪 道 會 社
株 式 會 社 間 組
富 士 電 力 株 式 會 社

神 奈 川 縣 土 木 部 長
關 東 水 力 電 氣 株 式 會 社
熊 谷 組
工 政 會 社
犀 川 電 力 會 社
市 村 組
松 風 工 業 株 式 會 社
信 州 電 氣 株 式 會 社
鐵 道 工 業 株 式 會 社
土 木 工 業 協 會
東 京 橫 濱 電 鐵 株 式 會 社
東 東 信 電 氣 會 社
東 北 セ メ ン ト 會 社
日 本 道 路 技 術 協 會
合 資 會 社 西 本 組
日 本 動 力 協 會
株 式 會 社 廣 島 藤 田 組
室 蘭 船 渠 株 式 會 社

株 式 會 社 鹿 島 組
株 式 會 社 木 田 組
建 築 學 會
株 式 會 社 佐 伯 組
株 式 會 社 鳥 藤 組
株 式 會 社 錢 高 組
松 尾 橋 梁 株 式 會 社
大 日 本 電 力 株 式 會 社
電 氣 學 會
東 海 工 業 合 資 會 社
東 邦 電 力 株 式 會 社
都 市 土 木 會 社
內 務 省 橫 濱 土 木 出 張 所 長 (2 名)
日 本 ボ ル ト ラ ン ド セ メ ン ト 同 業 會
日 本 ビ チ ュ マ ル ス 會 社 (2 名)
阪 神 築 港 株 式 會 社
廣 島 電 氣 株 式 會 社
矢 作 水 力 株 式 會 社
會 社 關 係 招 待 者 62 名

會 員

安 藝 杏 一
青 山 吟 三 郎
井 關 正 雄
石 川 川 一 郎
岩 井 宇 一 郎
池 邊 金 一 郎
大 森 銀 一 次 郎
岡 海 治 三 郎
鬼 谷 辰 三 郎
菅 村 重 正 郎
北 藏 林 敏 三 郎
小 高 本 崎 丹 治
坂 柴 保 木 敏 行
神 鈴 中 金 長 衛
田 高 橋 甚 治
高 錦 見 一 也
進 之

安 藝 岐 一
青 山 孝 太 郎
伊 藤 垣 塚 有 保 吉
稻 岩 上 野 崎 野 伴 三 郎
岡 荻 加 藤 上 國 武 忠
川 風 北 澤 田 宇 石 月
黑 後 佐 櫻 柴 杉 關 田 鷹 遲 遠
藤 野 野 藤 木 田 戶 信 淵 部 塚 武
齋 芳 吉 廣 平 郎 雄 男 定 郎 藏 彦 光 清 雄 郎 平 三 熊

安 倍 強
荒 井 綠
伊 藤 純
今 藤 井 武 次
岩 岡 敬 田 邦
小 川 竹 谷 太 敬
岡 大 梶 川 菊 久 黑 後 佐 酒 鳥 鈴 園 田 谷 津 那
保 澤 藤 藤 井 木 村 口 田 波

青 木 楠 男
井 上 秀 一 郎
石 井 好 平
今 井 芳 通 勇
岩 大 野 昇 馬 郎
岡 大 串 源 一 直 惇
金 子 原 澤 間 次 猛 利 三 團 次 正 一 久 義
河 北 草 阪 藤 藤 上 野 山 中 橋 谷 喜 正
小 古 佐 坂 生 須 田 高 種 土 富

會 務 報 告

外山 繁太郎	中村 光四郎	仲田 聰治郎	永井 松次郎
永田 兵三郎	中川 吉造	永田 民也	西尾 辰吉
西田 精	西出 辰次郎	西脇 利夫	八田 嘉明
塙 哲郎	原 静雄	原 全路	原口 忠次郎
平井 喜久松	廣瀬 孝六郎	古川 阪次郎	星野 茂樹
細野 芳彦	堀 越清六	前川 貫一	松浦 圓四郎
松浦 康秋	松本 金吾	水 谷 鑄	宮本 武之輔
村井 利雄	名井 九介	森 忠 藏	安 宅 勝
山口 昇	山崎 匡輔	山中 良樹	山本 省吾
結城 朝恭	吉田 徳次郎	米山 辰夫	和田 重辰
和田 忠治	阿曾 沼均	大木 利彦	佐藤 忠三郎
三宮 守衛	橋口 行彦	百武 定一	三浦 義男
森 勝吉	渡邊 榮五郎		

一般者 129名 } 140名、外=職員 19名及日滿工業記者 1名 總計 233名
 會長、理事、テーブルマスター、支部長 11名

講 演 會

土木學會創立 25 周年講演會は既報の如く昭和 14 年 10 月 19 日及 20 日の兩日に互り午前中に開催せられた。講演者は 23 名の内 1 名だけが缺席せられたのみであつて、各講演者に與へられた時間は 14 分間の短時間であつて充分の講演をなし得なかつたことは誠に残念であつたが、それにも關らず豫期以上の好評を博したことは誠に喜ばしい次第である。聴講者は兩日とも各 300 名に及ぶ盛會であつた。講演内容は講演欄に詳述されてある。

見 學 會

土木學會創立 25 周年記念大會見學會は昭和 14 年 10 月 19 日並に 20 日の兩日の午後を以て舉行せられ参加者は第 1 日は約 150 名、第 2 日は約 220 名の多數に上り、幸ひ兩日共に好天氣に恵まれて非常なる盛會裡に見學會を舉行することが出來た。見學の箇所及要領は下記の如くであつた。

第 1 日

期 日	昭和 14 年 10 月 19 日 (木曜日)
集 合	午後 2 時 大宮驛前 (東北本線)
見 學 場 所	鐵道省大宮工場、大宮公園
行 程	大宮驛前より自動車にて鐵道省大宮工場及大宮公園の諸施設を見學し休憩後大宮驛に到り解散とす

第 2 日

期 日	昭和 14 年 10 月 20 日 (金曜日) 荒天の場合は中止
集 合	濱松町恩賜公園内 午後 1 時 (省線濱松町驛下車)
見 學 場 所	東京築港及第 3 臺場、滿鐵埠頭、キリンビール工場
行 程	芝浦岸壁よりランチに乗船東京築港を見學しキリンビール工場を見學解散

鐵道省大宮工場 大會第 2 日目、講演會終了後見學會の集合場所は東北本線大宮驛前廣場である。集合時刻た。

る午後 2 時會員約 150 名の集合を待ち 2 臺のバスを折返し運轉して鐵道省大宮工場へと急ぐ、バスは驛を離れるとすぐ左に折れる。此のあたり線路の向ふ一帶の建物は凡て大宮工場である。

先づ一行は工場事務室の 3 階にある講堂に於て長谷技師より本工場の沿革並に内容の概要に就て御話を拜聴した。即ち本大宮工場は事變の影響を受け、軍機保護法の適用を受けてゐるため充分工場の諸設備を見學することは不可能であるが、其の適用を受けてゐる部分は重要部分の一部であるから、其の他の工場を見學して本工場のあらましの作業を想像せられたい、と前提して大略次の如き説明があつた。

本大宮工場は明治 27 年 3 月、日鐵時代創立のものが鐵道省に移つてからも繼續して今日の大宮工場となつたものであり、當時は従事員の數も 230 名位であつたものが、今日では御覽の如く大きくなり内容を數字を以て示す事は差控えるがとにかく日本一である。

當工場の仕事と云ふのは機關車、客車、貨車、ラッセル車等の車輛の修繕を目的として居り、この修繕に要する工作機械及工具の製作並に之が定期的修繕を行つてゐる。

又鐵道工場以外の驛、檢車區、電力區と云ふ方面の設備機械の修繕及定期検査をも行つて居る。

之等の事柄をなす爲に之を 6 つの掛りに分けその下に 22 の専門的な仕事を受持つ職場と云ふものがあり、一方新しい職工の養成機關として學校が作つてある。この職場には鐵治は申すもがな鑄物から木工、仕上、塗工場等がある。

修繕は機關車であれば大體 3 年は保證するつもりでやつて居る。こう云ふ修繕も我々は一般修繕と云ひ、客車は 1 年 3 ヶ月貨車は 2 ヶ年置きに入つて来る。ラッセル車等の特殊なものは 1 ヶ年である。

鐵道の工場は以前は修繕がその大部分であつたが現在ではその製造も行つて居りその外に軍需關係の仕事が入つて來てゐる。

機關車は恐らくどの民間工場でも作るが、此の工場でも數年前から作り始めてゐる。出來榮は用ふる者の立場の者が作るので運轉士から非常に喜ばれてゐる。一般に官營なる故に高價となると思はれてゐるが、其の値も實際的に安く、良いものが出來てゐる。

鐵道の工場ではどこでも作業研究と云ふものをやつて居て、之は 10 年來やつて居る事であり、爲に工作機械も安く優秀なものが出来様になつて居る。この研究は無駄をはぶくのが目的である。

職工に對する賃金は一定の指定せる作業工程を示し、尙その外にその出來高により 3 割とか 5 割とかの利益配當をやる様にして居る。

以上の如きお話が終つて數名の係員に案内せられて工場見學にと向ふ。

先づ鑄物工場より始める。砂で鑄型を敷かぎりなく作つてあり、又處々で之に眞赤な鐵を流し込んでゐる。此處を出ると屑鐵が山の如くに積んであり、次が本工場、工具製作場、動力室、空氣制動機製作場等々、我々門外漢が見ては良く判らぬものばかり、其の次は赤い 2 本の横線のある軍機保護法云々と云ふ立札のある職場で之は外側を素通りして、塗工場の方へと急ぐ今では皆吹付で行ふのか車が一輛ずつぱりと入る様な袋が出来てゐる。

そこかしこに木製車の板を修繕して居るのが見られる。あれでも修繕すれば再び乗れるのかといふかしく感ずる。

職工の食堂では調理に忙しそうだ。中をのぞくと中央天井に各職場無事故競走を示す大きな掲示板がある。管理者側で如何に傷害と云ふ事に注意をはらつて居るかその苦心の程がしのばれる。

3 時半工場見學を終つて次の見學場所たる大宮公園へと向ふ。

大宮公園 一同が工場の見學を了へて賑やかな大宮の通りをバスで見物しながら大宮公園に着いた頃は折柄の薄曇りと公園の樹木に閉ざされたせいか日足早い秋の氣配が感ぜられる 4 時一寸過ぎであつた。

此處で埼玉縣の御好意によつて公園内に饗宴場を設けて茶菓、飲物等の接待あり、一同暫し休憩、談笑と共に時

を過した。此の大宮公園は官幣大社氷川神社と共に大宮風致地區をなすもので一名氷川公園とも呼ばれ東京郊外四季行樂の地として豫てから知られて居る所であつて、大宮町保勝會の觀光誘致の努力や最近の縣町一體となつての風致區諸施設完成への邁進は、人口今や 4 萬を算し市制實施の機運を醸成しつつある。縣並に町が如何程此の點に努力せられて居るかの一端として氷川公園改良工事の概要を次に擧げて見ることにする。

(1) 公園總面積 80 000 坪

内 陸上並に自轉車競技場	12 000 坪	舟 遊 場	6 000 坪
野 球 場	5 000 "	兒童遊園地	1 000 "
庭 球 場	700 "	其他道路樹木原地帶	53 800 "
水 泳 場	1 500 "		

(2) 總 工 費 393 344 圓

内 工 事 費	303 544 圓		
地上物件移轉費	40 000 "	土地買收費	49 800 圓

(3) 工事中重要設備及着手竣功年度

陸上並に自轉車競技場	66 846 圓	昭和 6 年～目下工事中
野 球 場	80 764 "	" ~ 昭和 8 年
庭 球 場	1 000 "	9 ~ " 10 年
プ ー ル	60 000 "	未着手
兒童徒涉池	16 816 "	昭和 7 年～昭和 9 年
舟 遊 池	6 380 "	" 8 " ~ "
兒童遊園池	4 765 "	" 7 " ~ " 8 "
其他道路及樹木地帶	66 973 "	" 4 " ~ " 10 "

宴半に谷口副會長立たれて今度の縣當局及大宮町長並に有志の方々の御好意の數々に對し大要次の様な感謝の御挨拶をされた。“本日の土木學會創立 25 周年記念に際し當大宮を見學致しました所縣當局及大宮町長並に有志の方々の厚き御盡力の結果、秋麗の候にふさはしい盛宴をはつて戴き、愉快な半日を過ごすことの出來ましたことは誠に意義あることであつて深く感謝の意を表する次第であります”。

次いで一同未だ工事中の競技場を見學し折柄 カントを切つて走行練習中の自轉車競技に興味を覺えた。つきぬ宴席に名残りを惜しみつゝ大宮驛に向ふ。既に暮色漸くあたりに迫る 5 時過ぎであつた。是處に見學會第 1 日は何の滞りもなく極めて有意義に終了したのであつた。

見學會第 2 日 講演會終了後定刻の午後 1 時集合場所である濱松町恩賜公園に集合、總勢約 230 名は學會の旗を先頭に東京港芝浦棧橋に向つた。棧橋に着くと共處には横濱税關の好意によつて土木學會の本日の見學會の爲に特に用意せられた海光丸 (220 t) が船内の準備も全く成つて會員の乗船を待つて居る。乗船に際し各自は東京港並に横濱港に関する種々のパンフレット、圖面、繪葉書等を受取り之によつて船中に於て各施設に関する豫備知識を深めることとした。午後 1 時 25 分全員の乗船を終へ出發準備全く成つて船は目的地たる鶴見に向つて岸壁を離れた。船上には横濱市、東京市の好意により種々茶菓の接待あり和氣藹々裡に東京灣を南進した。

羽田沖にかゝる頃丁度世界一周を終れる東日のニッポン號が羽田空港に着陸瞬間と思はれ多數の歡迎飛行機の亂舞するのが見受けられた。

約 1 時間半の後海光丸は横濱港第三區に入つて小倉石油會社附近に碇泊、此處より神奈川縣京濱工業地帯建設事務所より差廻された數臺のモーターボート並に解船に分乘して、本日の見學工場たるキリンビール横濱工場前に上陸した。これより工場員の先導により工場内の諸設備を見學することとした。先づ空堀の山と積まれた中を通

つてビール工場内の 壘詰仕上室に入る。汚れた空壘は人手により手際よく給壘機上に一列に並べられ、ば壘は機械的に壘洗機に送り込まれて充分洗滌され、熟練せる職工により一々檢壘せられて再び壘詰機に入り更に打栓機、殺菌機を通りて後綿密なる製品検査を通つて貼紙機にてレッテルを貼られ、始めて市場に見る如きビールが出来上る。これまでの工程が空壘並に製品の検査以外は總て機械的に行はれて居るのである。

ビール工場を見學し次いで清涼飲料工場を見ることゝした。此處に於てもビール工場に於けると同じ様に空壘の洗滌に始まり壘詰、打栓、攪拌輸送、製品試験並に検査、表装貼付、乾燥輸送に至るまでの作業が全く機械的に取行はれて行く有様を一同興味を以て見學し、續いて製壘工場に至りてビール壘並にサイダーの壘等が製壘機に依つて驚く可き迅速さを以て造られて居るを見た。尙目下製造中の壘は海外向輸出品であることを説明せられた。

約 1 時間の後見學を終へ工場内の休憩室に至り當會社の好意によりて用意せられた茶菓並に出来たての生ビール等に渴を療し乍ら工場長代理より キリンビール 會社の沿革に就てのお話を承つた。續いて學會を代表し本會總務部長の山崎匡輔博士より本日の見學會に對して寄せられたる横濱税關、キリンビール會社並に關係各位の御厚意に對し深甚なる謝意を述べて後學會の長老那波光雄博士の發聲によつて土木學會の萬歳を三唱して 4 時過ぐる頃見學會を無事終了した。

図書室及娛樂室御利用に就て

本會所有の図書及雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自 9 月 1 日至 12 月 28 日 自 午前 9 時 至 午後 8 時、 自 7 月 21 日 及 土 曜 日 自 午前 9 時 至 午後 4 時、
自 1 月 4 日至 7 月 20 日 至 8 月 31 日

但し 日曜及祭日は休み

図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しました。又新に本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介する事に致しましたから、會員の著書其の他図書雑誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 寸法径 14 mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 14 錢を要す)



(實物大)

寄稿に関する注意

1. 用紙 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
 2. 頁數 頁數は本會の本誌 15 頁（原稿用紙 90 枚）以内とされ度し。若し前記頁數を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
 3. 文体 文体は文章的口語体とす。本文に重要な關係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基き適當の字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
 4. 書体 楷書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は文部省制定ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば n と u , u と v , r と v , a と α , r と γ , d と δ , その他 C と c , K と k , O と o 等頭字と小字とを判然たらしむる事。
 5. 數字名數 數字は 3 桁毎に間隔をあげる事名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。
例へば
35 錢（三十五錢）、13.56 円（十三円五十六錢）、1~4 時間（一時間乃至四時間）、
88326 t（八萬八千三百二十六噸）、昭 14. 1. 1.（昭和十四年一月一日）、
 m^3 （米）、 m^3 （立方米）、 kg （班）、83.4 尺（八丈三尺四寸）
 6. 用語 用語は本會制定用語に依られ度し（本會制定用語は本會發行の土木工学用語集参照）。
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。
 7. 図表 (1) 図表は図-1、表-1 等と書き図表題を記すこと。
(2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。
(3) 図面はその儘縮寫し得る様にトレーシングペーパー、オイルペーパー、トレーシングクロス等とすること。
(4) 図表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さざる事。
(5) 方眼紙は青野のものを用ひ（黄色、赤色の野は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。
(6) 図表の文字數、字は特に大きく書かれ度し、縮寫の標準は 1/2~1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2mm 程度となる様され度し。
(7) 図表類は版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。
 8. 寫眞 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。
 9. 其他 (1) 論説報告は邦文に限る。
(2) 講演及論説報告には必ず英文表題及邦文要旨並に著者の職名勤務所名を添附され度し。
- 附記 (1) 論説報告、彙報、時報、抄録及工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。
(2) 講演、論説報告の各欄に掲載の分には別刷 30 部を寄稿者に贈呈致します。尙 30 部以上御希望の向には豫め御通知ある場合に限り實費にて御要求に応じます。

會 務 報 告

第 25 卷 第 12 號 昭和 14 年 12 月

役 員 會

第 15 回理事會 (昭. 14. 10. 16.)

出席者： 八田會長、堀越、谷口兩副會長、山崎、高橋、和田、山本、稻葉各理事、中村書記長、小野寺庶務主任、朝倉會計主任

議 事

1. 25 周年記念事業費收支豫算を別紙(省略)の通り承認すること。尙決算の結果剩餘金を生じたる場合は之を記念事業繼續費として計上し其の計畫を樹てることとせり。

第 16 回理事會 (昭. 14. 11. 6.)

出席者： 八田會長、山崎、和田、山中各理事、中村書記長、小野寺庶務主任、朝倉會計主任、志村編輯囑託

報 告

1. 昭和 14 年 10 月 27 日岡田信次君の理事退任並に山中良樹君の理事就任の登記を了せり。
2. 中部支部第 4 回役員會議事を報告せり。
3. 東北支部の計畫に依る土木工事を主題とする懸賞應募寫眞の審査の結果を報告せり。

議 事

1. コンクリート調査委員會委員に次の諸君を追加依頼することとせり。

松岡 又二君 杉 戸 清君 高 田 昭君
山岡 包郎君 新井 義輔君 吉 田 赴君
宮川 正雄君 近藤 正雄君 水 越 達雄君
佐藤 志郎君 伊 藤 剛君 大 石 勇君
谷 藤 正三君 齋 藤 義治君 尾之内由紀夫君

2. 鐵筋コンクリート標準示方書改正案に關する座談會を 11 月 15 日内務省土木試験所講堂に於て開催することとせり。
3. 創立 25 周年に際し 300 圓以上寄附せられたる諸君を賛助員に推薦することとせり。
4. 入退會の件 別紙の通り承認せり。

以上の外最近タイ國より歸朝せる會員稻垣茂樹君を招待しタイ國事情に就き談話會を開催することに申合せ和田理事より稻垣君に交渉することとせり。

第 17 回理事會 (昭. 14. 11. 20.)

出席者： 谷口副會長、山崎、高橋、和田、山本、稻葉各理事、中村書記長、小野寺庶務主任、朝倉會計主任、志村編輯囑託

議 事

1. 西部支部申請の同支部内規の一部(常議員會議事参照)改正を承認することとせり。
2. 中部支部昭和 15 年度收支豫算を別紙(省略)の通り承認することとせり。
3. 關東及關西地方水害調査委員會委員沖藤政次君、岡部二郎君の轉動に伴ひ渡邊榮五郎君、稻積豊二君を依頼することとせり。
4. 防空應話會々員として和田重辰君、岡田實君を本會より選出することとせり。
5. コンクリート標準試験方法に就き建築學會と聯合協議を爲すこととし協議員に次の諸君を依頼することとせり。

吉田 徳次郎君 一木 保夫君 内 山 實君
内村 三郎君 松村 孫治君 吉田 朝次郎君

6. 25 周年記念事業費更正豫算を別紙(省略)の通り承認することとせり。
7. コンクリート調査委員會委員に島山正君を追加依頼することとせり。
8. 入退會の件 別紙の通り承認せり。

第 8 回常議員會 (昭. 14. 10. 16.)

出席者： 堀越、谷口兩副會長、伊藤、稻葉、岡田、高橋(嘉)、百武、松田、松本、山崎、山中、山本、和田各常議員、中村書記長、小野寺庶務主任、朝倉會計主任

報 告

1. 會誌編輯委員會委員太田尾廣治君、伊藤信君は退任し、後任に安藝紋一君、藤野義男君を依頼せり。

議 事

1. 25 周年記念事業費收支豫算を別紙(省略)の通り承認することとせり。
2. 理事岡田信次君の辭任に依る補缺選舉を行ひ山中良樹君當選せり。
3. 調査部長岡田信次君辭任に依り後任に山中良樹君を依頼することとせり。
4. 12 月上旬映畫會を開催することとし文化映畫委員會に於て之が計畫を樹てることとせり。

第 9 回常議員會（昭. 14. 11. 20.）

出席者：谷口副會長，稻葉，川口，高橋（嘉），瀧尾，松田，松本，山崎，山中，山本，和田各常議員，中村書記長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，志村編輯囑託

報 告

1. 日本工學會評議員會議事を報告せり。
2. 北海道支部第 9 回役員會議事を報告せり。
3. 北海道支部商議員宮本保君は退任し，河西定雄君就任せり。
4. 中部支部第 2 回定期總會議事を報告せり。
5. 西部支部總會を 11 月 19 日開催せり。
6. 關東及關西地方水害調査委員會委員を（理事會議事参照）依囑せり。
7. 10 月，11 月中の入退會を別紙の通り承認せり。
8. コンクリート調査委員會委員に島山 正君を追加依囑することとせり。

議 事

1. 西部支部申請の同支部内規の一部を次の如く改正することを承認せり。

第二條第三項「第二條第三項 役員ノ改選期ハ毎年一月トス，但シ第一回役員ノ任期ハ昭和十五年一月迄トス」を削除す

第七條を次の如く改む。「第一回ノ商議員ハ抽籤ニヨリ其ノ半數ハ其ノ任期ヲ一年トス」

2. 中部支部昭和 15 年度收支豫算を別表（省略）の通り承認せり。
 3. 防空懇話會々員として和田重辰君，岡田 實君を本會より選出することとせり。
 4. 25 周年記念事業費更正豫算を別紙（省略）の通り承認せり。
 5. 稻垣茂樹，立花次郎兩君に依る談話會を 11 月 28 日開催することとせり。
- 以上の外本會々員出征軍人に對し慰問品を送る便法に就き協議し篤と調査することとせり。

總 務 部 記 事**文化映畫委員會**（昭. 14. 10 21.）

出席者：金森前委員長，青木委員長，瀧尾，金子，片平各委員，徳丸君

決 議 事 項

1. 懸賞當選シナリオ“流れに沿ひて”をトーキー・シナリオ形式に整へるべく原案を片平委員に一任，

來月中旬委員會に於て討議完成せしめること。

2. 未完の儘の委員會 16 耗映畫“かちどきばし”を完成すること。

これにつき下山委員の出席を待ち近日中に撮影に關する委員會を開く。此の委員會に於て，次回製作映畫を討議すべく其の構成を考へて持ち寄ること。

3. 映畫法實施に伴ひ，文化映畫の進出を期し，再び有名映畫會社に働きかけること，これについては金森前委員長の御助力を願ふこと。

4. 各配給會社に行き，土木に關する映畫を調査すること。先方の都合の問合せは徳丸君に一任すること。

5. 12 月に行ふべき土木學會映畫の夕に上映すべき映畫

イ) かちどきばし，ロ) 稻垣氏撮影のシヤムの土木事業，ハ) 秋田大震災

其の他，一般土木映畫は 4 の調査により決定する。同映畫の夕には必ずレコードの伴奏を用ふること。

6. 5 の目的のため東京市水道局業務課製作の“我等の水”を試寫すること。

外人功績調査委員會（昭. 14. 11. 7.）

出席者：那波委員長，眞田副委員長，名井，安藝，茂庭，辰馬，山崎，樫木，上村各委員，江澤囑託，中村書記長，小野寺庶務主任

協 議 事 項

1. 眞田委員長より其の後に於て調査完了を見た下記諸氏に關する資料を報告せり。

ブレーキ(米)	ガール(英)
ケプアン(米)	ワルフキルド(米)
アンチセル(米)	ライマン(米)
デー(米)	ホルト(米)
クラーク(米)	ホイラー(米)
ビューボデー(米)	コウジセウ(米)
フアングント(和)	メーク(英)
ルムシヨツテル(獨)	バルツエル(獨)

2. 編纂方法に就ては大體菊版約 100 頁のものとし 1000 部位を作製して關係各方面へ寄贈することに申合せ尙資料蒐集完了を俟つて更に具體的に協議することとせり。

3. 山崎委員の發意にて次の事を協議せり。

(1) 外務省文化事業部に對し本圖書の發刊に就て補助金下附方を交渉すること。

創立 25 周年記念大會

昭和 14 年 10 月 18 日より 3 日間に互り別記の通り本會創立 25 周年記念大會を開催せり。

編輯部記事

第 11 回會誌編輯委員會 (昭. 14. 11. 8.)

出席者：廣瀬委員長，安藝，大石，本間，杉村，安宅，當山，風間各委員，志村編輯囑託

協議事項

1. 會誌第 25 卷第 11 號所載原稿謝禮を決定せり。
2. 會誌第 26 卷第 2 號登載記事を決定せり。

調査部記事

コンクリート調査委員會 (昭. 14. 10. 16.)

出席者：吉田委員長，安藝，一木，内山，金子，黒澤，坂元，末松，土井，沼田，樋浦，松村，目黒(雄)，吉田(朝)各委員，新井義輔君，吉田 赴君，磯崎傳作君

協議事項

1. 無筋コンクリート標準示方書を作成することに決定せり。
2. 無筋コンクリート標準示方書の分類を次の如く決定せり。
○一般構造物，○堰堤，○舗装
3. 無筋コンクリート標準示方書作成のため，新井義輔，吉田 赴兩君の外，滿鐵より數名，鐵道省及堰堤關係より數名の委員の増補を理事會に諮ることとせり。
4. 各部門に各小委員會を設け，各獨立した示方書を作成することとせり。各小委員會の委員は次の如く内定せり。

堰堤…内村，黒澤，目黒(雄)各委員，新井義輔君，吉田 赴君

道路…金子，菊池，末松，樋浦，藤井，松村，目黒(清)各委員

5. 一般構造物に關する小委員會の起草委員は，一木，内山，土井，吉田(朝)の 4 委員に決定せり。尙，堰堤及道路關係の分は各小委員會に於て追つて決定の筈なり。

6. 昭和 15 年 1 月末日までに案を纏めることとし，毎月 1 回委員會を開き，経過を報告することとせり。

7. 来る 11 月 15 日，鐵筋コンクリート標準示方書改正案に對する座談會を開催し，一般の意見を聴くこととせり。

座談會 (昭. 14. 11. 15.)

鐵筋コンクリート標準示方書改正案に關し午後 6 時より内務省土木試験所講堂に於て開催せり。

出席者：山中理事，吉田委員長，安藝一君，淺井政治君，池田克巳君，一木保夫君，内村三郎君，内山賀君，小川敬次郎君，大石勇君，加藤順吉君，勝海恭次郎君，樺島正義君，北澤忠男君，黒田武定君，近藤泰夫君，齋藤義治君，坂元左馬太君，佐藤清一君，佐藤富三君(辻井氏代)，杉戸清君，鈴木雅次君，高橋逸夫君，高松君，谷藤正三君，富田正通君，西川榮三君，沼田政矩君，橋口行彦君，船山春雄君，松田宗三君，松村孫治君，宮川正雄君，吉田彌七君，近藤正雄君，外傍聴者 3 名

1. 本座談會開催に就ての挨拶(山中調査部長)
2. 改正案に對する一般的説明(吉田委員長)
3. 主なる改正箇所就ての説明(内山委員)
4. 吉田委員長を座長に推し，座談會に移る。改正案に對する主なる意見次の如し。

第 18 條 鐵筋の標準寸法につき再審議されたい。

第 25 條 表-3 に高爐セメントを加へては如何。表-3 の數字を，端數なき數字に直せないか。

第 26 條 ウォーカビリチーと流動性試験との間に，何かつなぎの文句が必要ではないか。

第 36 條 (4) の材料の加熱については最高溫度を規定してほしい。

第 48 條 (3) に於て，附加鐵筋を加へなくてもよいと言ふ意味の文句を入れてほしい。

附加鐵筋の長さについて，再審議されたい。

第 12 章 に珪酸セメントを考慮に入れては如何。

第 63 條 「及激しき潮風を受くる場合」を加へてほしい。

第 71 條 溫度變化及硬化收縮の影響を考慮した場合のコンクリートの許容應力につき，再検討されたい。

第 74 條 集中荷重の分布が，内務省土木局の鋼橋示方書のと違ふが，統一しては如何。

第 75 條 圖-2 の b_1 を a_1 にしてほしい。

第 75 條 (1) に於て、異形鐵筋の場合の許容附着力度を入れては如何。

第 92 條 圖-10は原書と幾らか書きかへては如何。

附録第 3 條 (2) の 1/1000 は、試料全重量の 1/1000 なる意味をはつきりかいてほしい。

附録第 29 條 (1) の亜鉛引鐵板を亜鉛メッキ鐵板に直してほしい。

附録第 31 條 (1) の突き回数を、型の大き及コンクリートの硬軟に應じて變へては如何。

附録第 32 條 (3) の「パラフィン紙」は「パラフィン紙の類」に改めてほしい。

附録の試験方法は全國的に統一してほしい。

午後九時半閉會せり。

第 1 回堰堤コンクリート示方書作製に関する小委員会 (昭. 14. 11. 20.)

出席者： 吉田委員長、内村、目黒、大石、山岡、新井、宮川、近藤、水越、一木、杉戸、黒澤各専門委員、内山賀君

吉田委員長より無筋コンクリート示方書作製に關し今日迄の経過報告あり、本小委員会の委員長に内村君を幹事に目黒、大石兩君を依頼することとし下記諸項を決定せり。

1. 草案作製は大體内務省、電気廳、發送電にて分擔することとし夫々下記諸君を依頼すること。

セメント、材料、試験： 一木(福島綱六君は追つて入會の上依頼すること)

配合、施工： 新井、吉田 養生、その他： 近藤、水越

2. 島山 正君を委員に追加すること。

3. 記録係として黒澤、島山兩君を依頼すること。

4. 2 週に 1 回程度、小委員会を開催すること。

5. 次回は昭. 14. 11. 30. 午後 5.30 より開催することとし其の際各自資料を持ち寄ること。

關東及關西地方水害調査委員会幹事會

(昭. 14. 10. 23.)

出席者： 眞田委員長、鈴木副委員長、富永、三浦兩幹事、藤本書記

協議事項

第 4 部鐵道軌道の寫眞及記事の整理に就き適當に取捨選擇を三浦幹事に一任することとせり。

11 月 6 日最終主査會を開くこととせり。

關東及關西地方水害調査委員会主査會

(昭. 14. 11. 10.)

出席者： 眞田委員長、鈴木、阿曾沼兩副委員長、高橋(嘉)、金子、春藤各主査、富永、三浦兩幹事、小野寺庶務主任、志村編輯囑託

協議事項

1. 各部調査報告は全部完了を見るに至りたるを以て之が編輯に就き具體的に協議を行ひ、富永、三浦兩幹事指導の下に専任者 2 名を囑託して編輯することとせり。

2. 編輯専任者 内務省 1 人、鐵道省 1 人の人選は兩幹事に一任することとせり。

3. 昭和 13 年 6、7 月中の氣象報告を中央氣象臺より寄贈を受くることとせり。

4. 本調査報告は土木學會誌特別號として發行せられむことを理事會に要望することとせり。

5. 第 1 部委員に富永正義君を煩はすこととせり。

6. 沖藤政次君、岡部二郎君地方轉勤に伴ふ後任に渡邊榮五郎君、稻積豐二君を依頼することとせり。

中部支部記事

講演會 (昭. 14. 10. 7.)

會場： 名古屋ホテル

來會者： 100 餘名

講師及演題： 滿洲雜感 會員 比企野廣次君
送電鐵塔の計算に就て 益田良彦君
中支に於ける土木事業 會員 田淵壽郎君

第 4 回役員會 (昭. 14. 10. 21.)

出席者： 北澤支部長、田邊、大石兩評議員、比企野、松本、大西各幹事

議 事

1. 第 2 回定期總會開催の件 3. 評議員改選の件
2. 支部長改選に關する投票の件 4. 昭和 15 年度收支豫算の件

第 2 回定期總會 (昭. 14. 10. 29.)

會場： 静岡市公會堂 出席者： 85 名

議 事

1. 評議員選舉

附則第 2 條に依り抽籤を以て決定せる退任評議員次の如し。

田淵 壽郎君、城戸 鑽吉君、奥田助七郎君、
中原壽一郎君、小林 榮朗君、花井又太郎君、
田邊 良忠君、永田 民也君、鈴木 鹿象君

後任者選定は支部長に一任とす。

2. 第 3 回定期總會を昭和 15 年秋岐阜市に於て開

催することゝす。

講 演 會

講師及演題： 土木工事に於ける資源開發と節約
 會員 須山英次郎君
 富士川の水力開發概要 " 内海清温君
 アルミニウムの製造法
 日本輕金屬株式會社
 工場建設部長 西田傳五郎君
 副會長挨拶： 土木學會副會長 谷口三郎君

見 學 會

見學場所： 1 號國道，日本輕金屬株式會社發電
 所及工場
 建設工事，清水港，九龍山麓石垣葎
 栽培狀況
 懇 親 會： 靜岡市浮月樓に於て開催出席者 85
 名

東 北 支 部 記 事

懸賞藝術寫真審査報告

1. 土木工事を主題とする懸賞藝術寫眞の應募 24
 點中審査の結果當選したるもの次の如し。

- 1 等 馬 ト ロ 會員 長濱 時雄君
- 2 等 鐵道線路土工 准員 太田勝四郎君
- 3 等 兩羽橋親柱 會員 小川 靜君
- 選外佳作 不動堰 會員 奥山 茂君
- " 阿賀川水制 " 同 人

北 海 道 支 部 記 事

第 9 回役員會報告 (昭. 14. 11. 8.)

出 席 者： 神保支部長，齋藤，杉森，齋部屋，千秋，
 野村，平尾各商議員，大坪幹事長，安藤，
 板倉，瀬田各幹事，岡本主事

報 告

- 1. 見學會の件 (別記事参照) 2. 25 周年記念
 大會へ支部長出席の件 3. 25 周年記念廣告募
 集の件 4. 特別員に對する交付金の件

議 事

- 1. 商議員補充の件 2. 北海道支部地方委員補
 充の件 3. 昭和 15 年度收支豫算の件 4. 會
 員増加の件

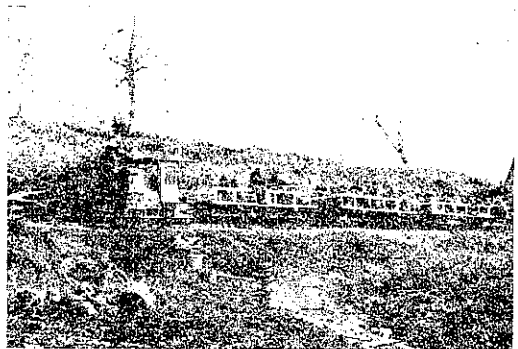
雨龍水力發電所工事見學會 (昭. 14. 10. 14~15.)

參加人員 52 名
 第一日午後 1 時幌加内線朱鞠内驛に集合，幌加内線

朱鞠内出發 (軌道乗車場)



第一堰堤に向ふ



第二堰堤工事現場

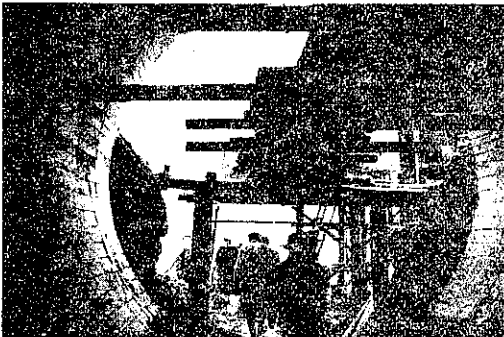


建設工事見學者は深川驛よりモーターカーに便乘し，
 線路，橋梁，隧道等を見學し同時刻朱鞠内着，午後 1
 時半第一班全員 44 名，雨龍水電松野辰治工務課長，
 長谷川敬忠飛鳥組出張所主任等の案内にて工所用軌道
 により第一堰堤，第二堰堤を見學，午後 5 時過ぎ朱
 鞠内に歸着，午後 4 時に到着せる第二班と合して會

取水口（壓力隧道入口）



壓力隧道出口



社側の招待晩餐會に出席せり。

第二日 第二班は午前 7 時半出發第一堰堤を見學、第一班は午前 8 時半朱鞠内を出發途中第二班と合して土堰堤工事を見學、それより徒歩にて取水口に到り更にトラックにて水路隧道を見學しつゝ發電所に到着見學を終了し、午餐の嚮應を受けて午後 1 時半發電所發トラックにて風連に着、豫期以上の盛會裡に解散せり。

工 事 概 要

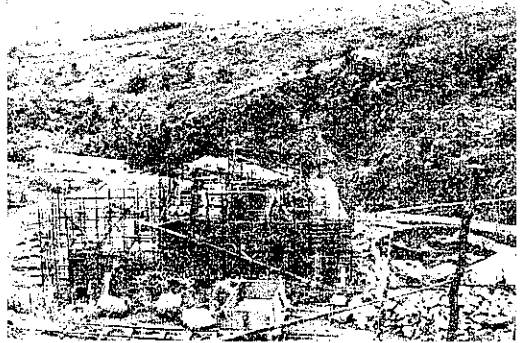
- (1) 落 差 175 m
- (2) 出 力 最 大 50 000 kW

平 時 37 000 kw
年平均 20 000 "

- (3) 貯水池面積 約 22.5 km²
- (4) 貯 水 量

第一貯水池（太釜別川）	1.6 億 m ³	}	計 1.7 億 m ³
第二 "（宇津内川）	0.1 "		
- (5) 堰 堤

發 電 所 工 事



第一堰堤

コンクリート造溢流型重力堤 高 41.0 m

第二堰堤 同 上 高 31.7 "

第三堰堤（土堰堤） 高 24.8 "

(6) 水 路

壓力隧道（取水口，調査水槽間）6.8 km

放水路延長 1.1 "

詳細は土木學會誌第 24 卷第 12 號參照

日 本 工 學 會 記 事

昭和 14 年 11 月 6 日日本工學會評議員會を開き一般會務の報告あり、次いで下記事項を決議せり。

1. 職員歳末手當支給の件

以上の外下記事項に就き懇談せり。

日本工學會定款一部改正に關する件

其 の 他 記 事

昭和 14 年 11 月 1 日土木學會誌第 25 卷第 11 號を發行成規の手續きを了し全會員に配布せり。

入 會 及 轉 格 會 員

特 別 員 (10 月 入 會)

鳴北鐵道株式會社	久保田 豊君	8 級
平北鐵道株式會社	"	"

端豐鐵道株式會社	久保田 豊君	8 級
----------	--------	-----

會 (10月入會)

遠藤 亮徹君 東京高速鐵道會社

佐藤 時彦君 鴨綠江水電會社

准 員 (10月入會)

相澤徳五郎君 内務省仙臺土木出張所

熊崎 恵介君 滿洲國産業部林野局

朝日作治郎君 福井縣廳土木課

桑原 勇君 東洋コンプレツソル會社

荒井啓八郎君 宮城縣電氣局

小林 盛幸君 日本發達電會社

五十嵐正一君 樺太廳交通部鐵道課

近藤 豊君 兩龍電力會社

板谷 龍太郎君 兩龍電力會社

鈴木 利平君 東鐵新橋保線事務所

大野 照光君 王子製紙會社

高橋 孝君 宮城縣廳電氣局

太田 近君 東鐵工務部保線課

遠藤 省吾君 富山縣廳土木部道路課

岡野 三郎君 日本發達電會社

土橋 節夫君 朝鮮總督府内務局土木課

片桐 修一君 王子製紙會社

中村 卓郎君 王子製紙會社

金光 秀君 朝鮮總督府内務局土木課

萩 一男君 東鐵工務部保線課

學 生 員 (10月入會)

阿部 茂君 日大工學部

栗原 茂君 京城高工

青柳 恭二君 仙臺高工

小石川隆一君 日大工學部

淺野 隆壽君 仙臺高工

小菅 繁君 "

伊藤 國和君 山梨高工

小西 秀明君 立命館日滿高工

伊藤 弘住君 仙臺高工

小林 和雄君 北大土木專門部

池尻藤五郎君 京城高工

小森 久君 日大工學部

石井 利男君 日大工學部

近藤 辰治君 山梨高工

石川 實君 仙臺高工

金野 芳夫君 日大工學部

石毛 正光君 日大工學部

崔 海 仁君 早大專門部

石田 二郎君 北大土木專門部

坂倉 廣典君 日大工學部

市川 尙志君 日大工學部

酒井 久雄君 北大土木專門部

泉 博玄君 北大土木專門部

堺 發君 日大工學部

梅 繁 茂君 日大專門部

作田 武君 早大專門部

遠藤 英世君 北大土木專門部

志村 太郎君 "

小野善次郎君 日大工學部

鹽澤 君男君 日大工學部

及川徳智男君 北大土木專門部

篠田 四郎君 "

大島 善一君 日大工學部

庄 司 正君 仙臺高工

岡田 篤也君 "

新濱徳太郎君 早大專門部

岡田 正俊君 早大專門部

鈴木 晃君 日大工學部

岡部 益人君 日大工學部

鈴木 兼一君 北大土木專門部

奥村 吉朗君 "

鈴木 茂康君 山梨高工

長田 庄平君 收玉社高工

鈴木 良夫君 日大工學部

加藤 二郎君 早大專門部

住岡 朗一君 "

片山 隆憲君 北大土木專門部

關野 義雄君 日大專門部

株本 禎夫君 日大工學部

田村 基正君 日大工學部

川村 豊君 早大專門部

高橋 長雄君 仙臺高工

沓澤 定男君 仙臺高工

辰巳 壽男君 日大工學部

熊谷 一郎君 日大工學部

館野 實君 早大專門部

蓮實 三郎君 昭和製鋼所土木部

藤谷 善則君 兩龍電力會社

三浦 靖君 山形縣廳土木課

皆川 徳恵君 王子製紙會社

森谷 益雄君 福井縣廳土木課

山田 孝吉君 鋼生産業會社

若山萬三郎君 宮城縣廳電氣局

渡邊 光君 鴨綠江水電會社

對馬敬一郎君 日大工學部

土田虎一郎君 "

出川寅太郎君 "

徳光 秀雄君 日大專門部

中村 國雄君 日大工學部

永田 二生君 山梨高工

永原 二郎君 日大工學部

二瓶 博義君 日大專門部

長谷川久壽君 日大工學部

濱崎 勇意君 神戸高工

濱館 辰彌君 北大土木專門部

林 太郎君 早大專門部

林 知己君 京城高工

林 綠君 早大高工

傳 國 華君 日大工學部

福岡誠次郎君 仙臺高工

藤井 格二君 早大專門部

藤澤 明夫君 京都帝大

藤原 英夫君 仙臺高工

藤原 良治君 京都帝大

船木 輝海君 "

古畑 隆平君 日大工學部

穂積 正孝君 仙臺高工

本間 岩男君 "

眞邊 壽夫君 日大工學部

増 永 一君 "

美彌 秀雄君 京都帝大

宮下 和夫君 北大土木專門部

宮原 良夫君 京都帝大
 村田 春雄君 仙臺高工
 室伏 慶治君 日大工學部
 望月 林作君 日大專門部
 矢田平八郎君 “
 矢野 典弘君 早大專門部
 安田 良治君 日大專門部
 柳瀬 珠郎君 京都帝大

梁瀬 衛君 日大專門部
 山口 時郎君 早大專門部
 山崎 義一君 日大工學部
 山城昇一郎君 北大土木專門部
 山田 外記君 “
 山田 恒治君 京都帝大
 山中 一郎君 日大工學部
 山中 道信君 “

横瀬 曠君 日大工學部
 吉村 司君 日大專門部
 和田 壽夫君 北大土木專門部
 渡邊 幹太君 早大專門部
 渡邊幸三郎君 日大工學部
 渡邊 毅君 “

會 員 (10月轉格)

荒井良二郎君 華北交通會社
 井内 萬治君 大阪市水道部下水建設課
 内田 義之君 東京市土木局河川課
 遠藤 加壽君 東邊道開發會社
 小畑 伊作君 華北交通會社
 岡部幸四郎君 “

加藤 義夫君 多田郡除經理部
 柏原富士郎君 浦鐵牡丹江建設事務所
 門 脇 融君 撫順工業學校
 木内 毅人君 日本發達電會社
 窪田 壽男君 滿洲拓殖公社
 興柄憲一郎君 鹿兒島縣土木課

篠原 四郎君 鹿島組
 杉下 喜鈴君 愛知縣土木部道路課
 關 源 三君 東邦電力會社
 辻中忠三郎君 北支塘沽築港事務所

准 員 (10月轉格)

阿部 愿君 廣島縣土木部河港課

迎 辰 男君 長津江水電會社

特 別 員 (社名變更)

新 社 名 大阪機工株式會社 舊 社 名 株式會社大阪機械工作所

土 木 學 會 會 員 數

(昭. 14. 10. 16 現在)

會 員	准 員	學 生 員	特 別 員	贊 助 員	合 計
3 335	4 260	1 238	88	21	8 942

會 員 (入 會)

玉井 淳君 函館保線事務所
 橋三 寛之君 宮城縣土木部河港課

殿村 由本君 山陽電氣鐵道會社

三浦憲一郎君 朝鮮總督府鐵道局保線課

准 員 (入 會)

阿部 仁藏君 仙臺管ヶ瀬保線區
 池畑 準人君 日鐵八幡製鐵所
 植草 重雄君 滿鐵博覽區工務區
 大 龜 茂君 株式會社廣島藤田組
 岡 恒 夫君 農林省農務局耕地課
 木村 惠雄君 兵庫縣土木部

熊澤 傳三君 日本發達電會社大阪支店
 熊田 貞徳君 滿洲交通郵航路司調查科
 佐藤 三郎君 東京市水道局擴張課
 永野 茂夫君 陸軍小倉工廠技術課
 長谷部勤惠君 日本輕金屬會社
 松田 省三君 朝鮮總督府鐵道局保線課

松岡 義久君 東北振興電力會社
 由布 功君 慶尚北道廳土木課
 季 一 圭君 東京市水道局擴張課
 渡部 信之君 內務省鬼怒川改修事務所
 松原 辰生君 朝鮮鐵道局盟水工務區
 沼野 武一君 北支派選多田部隊經理部工務科

學 生 員 (入 會)

秋篠 萬樹君 南滿工專
 池田 八郎君 興亞工學院
 上野 平治君 “

植木 廣邦君 興亞工學院
 遠藤 正壽君 “
 大津 和雄君 南滿工專

郭 淳 恩君 京都帝大
 片山 直梢君 “
 河原 克平君 南滿工專

吉川 照君	南滿工專	馬場 隆雄君	南滿工專	芳中 貴義君	南滿工專
小島 博君	"	原田 幹男君	日大工學部	渡邊 退助君	"
小林 清君	興亜工學院	福田 孝吉君	興亜工學院	伊藤 定一君	東京高工
古賀 眞平君	興亜工學院	福田 繁雄君	南滿工專	權 五 敬君	"
霜 博君	南滿工專	正木 憲行君	興亜工學院	土田 健吾君	"
杉本 治男君	京都帝大	増淵 智晃君	南滿工專	方 孝 鏗君	"
田島 實君	日大専門部	松浦 爲治君	興亜工學院	宮崎 一郎君	"
成田 正君	南滿工專	光田 英外君	"	宮本 政雄君	"
成松 辰雄君	"	山田昌太郎君	南滿工專		

會 員 (轉 格)

赤岩 克躬君	都市計畫顧問地方委員會	高橋 彌祿君	日鐵礦業株式會社
--------	-------------	--------	----------

土 木 學 會 々 員 數

(昭. 14. 11. 20現在)

會 員	准 員	學 生 員	特 別 員	贊 助 員	合 計
3 338	4 270	1 273	88	21	8 990

會員 關 毅君昭和 14 年 11 月 3 日逝去せられたり、本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表せり

會員 渡邊三省君、久門雄二君、吉本龜三郎君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

准員 龜山敏郎君は昭和 14 年 8 月 29 日ノモンハンに於て戰死せられたり、本會は靈前に弔詞を呈し恭して哀悼の意を表せり

准員 市川正明君、栗原長次君、小林誠一君、高野邦彦君、丸山 整君、清原 清君、齋藤 博君、澁谷直次郎君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

會員転居転勤の場合の御注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下さる様御願致します。

會費納付に就き御注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1月~6月)	第 2 期分 (7月~12月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月
納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等、振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄に爲替その他の方法に依り御送金相成度し。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下され度し。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 1 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。

發行後相當日數經過しての申越は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

既刊會誌殘部内譯

(* は残部有るものを示す)

巻	號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
6		—	—	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	(円) 2.00
7		—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
8		*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9		*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10		—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11		—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12		—	*	*	—	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
13		—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
14		*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16		*	*	—	*	*	*	—	*	*	*	*	*	1.00
17		*	*	*	*	*	*	*	*	—	—	*	*	1.00
18		—	—	—	*	*	—	*	*	*	*	—	—	1.00
19		*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	—	*	1.00
20		—	*	*	—	—	—	*	*	—	—	—	*	1.00
21		—	—	*	*	*	—	*	—	*	—	*	*	1.00
22		—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
23		—	*	—	*	—	—	*	*	*	*	—	*	1.00
24		—	*	*	—	—	—	—	*	*	*	—	—	1.00
25		—	*	—	—	*	—	*	*	*	*	*	*	1.00
第 20 巻第 12 號 (創立 20 周年記念號)..... 1.50														
第 21 巻第 7 號 (會誌索引付)..... 1.30														
震害調査報告書 (1, 2, 3)..... 18.00														
鉄筋コンクリート標準示方書 (同 上 解説)..... 1.00														
土木工學論文抄録..... 3.50														
土木工學會誌索引 (第 1 巻第 1 號~第 20 巻第 12 號)..... 0.50														
土木工學用語集..... 2.50 (送料別)														

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄に其の旨記入請求せられたし。

廣 告 料

普通廣告	1 回 1 頁	35 圓	1 回半頁	20 圓
指定廣告	{裏表紙 3 面對 向及廣告初頁}	1 回 1 頁	40 圓	
		色アート	1 回 1 頁	60 圓

○指定廣告は凡て1年繼續申込のものに限り取扱ふものとす

○會員自身の廣告に對しては總て上記料金の1割引とす

○同一廣告の連續掲載申込に對しては1年4回以上1割引とす

○廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

昭和14年11月25日印刷 昭和14年12月1日發行 (定價金1圓)

編輯兼發行者 東京市牛込區南町33番地
中 村 孫 一

印刷者 東京市神田區美土代町16番地
島 連 太 郎

印刷所 東京市神田區美土代町16番地
三 秀 合

東京市麴町區丸ノ内3丁目6番地

發 行 所 社 團 法 人 土 木 學 會

電 話 丸ノ内(23) 3945番, 振替口座東京16828番

THE 25th ANNIVERSARY MEMORIAL NUMBER

DOBOKU-GAKKAI-SI

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY)

VOL. XXV, NO. 12, DECEMBER 1939.

CONTENTS

	Page
Proceedings of the 25th Anniversary Memorial Meeting	1
Short History of Doboku-Gakkai	1
Presidential Address	
Kamei HATTA: War and Civil Engineering	1385
Addresses	
Takeo MOGAMI: A Contribution to the Theory of Contact Pressure. (A Problem of a Circular Plug in a Stretched Plate), (2nd Report)	1389
Syunzo OKAMOTO: Solution to the Vibration of Framing by means of Four Moments Theorem,	1395
Akira TAKADA; On the Internal Temperature Rise of Concrete Dam during Execution and the Ratio of Strength and Hydration Heat,	1407
Minoru UTIYAMA: Faculty of Concrete Vibrater,	1413
Susumu TAKAGI: Examples of Application of Pneumatic Caisson to the Building Foundation and the Underground Works,	1418
Jirō TATIBANA: On a Plan of Railway Improvement near Ōsaka	1431
Itizō HORIKOSI: On the Rail of Imperial Railway Government,	1434
Kiyosi IMAI: Project of Itō Station House, Itō Line	1437
Zyun-iti ITIKAWA: On the Cleaving of Manaitayama-Tunnel	1442
Masaru YASUMI: On the Katidoki-Bridge	1448
Sigenari ŌISI: Report of Construction Work of Dai-iti Tadamigawa-Bridge, ..	1459
Gonbei INABA: On the Welded Railway Bridge,	1476
Kikutarō ŌTUBO: Fluid Motion at suddenly changed River Bed,	1478
Masayosi TOMINAGA: About the Sand Deposit and the Peculiarity of Hydraulics in the down Stream of Tone-River	1528
Kōiti AKI: On the Effect of Short-cut,	1547
Saburō TAKAHASHI: Development of Hydro Electric Power under the State Administration,	1559
Yutaka KUBOTA: On the Yalu Suihō Dam Construction Work	1564
Makoto ITAKURA: A certain Water Supply Project by purified Sewer, ...	1568
Kōrokurō HIROSE: On The Filtration Velocity of Slow Sand Filtration,	1578
Saburō MORITA: About the History of Tōkyō Harbour,	1588
Proceedings of the Society	87

OFFICE

No. 6, 3-TYŌME, MARUNOUTI, KŌZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.